

「理想の学びの場」私案2016

～安心で 学び充実 仲間有り 生きる幸せ～

校長 丸 雄治

新年あけましておめでとうございます。旧年中は、大変お世話になりました。本年もよろしくお祈りします。新年を迎えるにあたって、「理想の学びの場」について考えてみました。通学した学校や勤務校（小・中・特別支援）や講師として訪問した約120校での経験や見聞を参考にしています。

基本は「安心」と「充実」が学びの場に満ちていることだと思います。

○学びの場での「安心」の意味

授業の中で、大きな流れを感じながら学んでいくことができることから安心感が生まれます。今、自分がやるべきことがわかり、次に自分が行うことが見通せると安心して学習に取り組めます。ある時点で自分が間違えても、じょうずに本流に導いてもらえると安心です。

○学びの場での「充実」の意味

当事者になることで、学びの場は自分の内部に蓄えられ、生きる力となります。「聞く・見る」「質問する」「発表する」「動作化する」「問題を解く」「意見交換をする」ことなどで学びの場での当事者になることができます。その中で「なるほど!」「わかった!」という言葉が出れば、次の行動に続き、文化が生まれます。この流れは、学校だけではなく社会のあらゆる場面で見られます。

○現代社会での「学びの安心・充実」

歴史ブームと言われています。城ブームともいわれます。定期刊行物も増えています。最初のきっかけはゲームなど様々ですが、現地に行き、さらに同好の仲間が集まることを通じて学びを楽しく深めていきます。自分の「興味・関心・気づき」から行動を起こし、さらに発見を広げていく中で「今、自分がここにいることの幸せ」を感じるのが「学びの安心・充実」であると考えます。

○「創造的な学びの場の共通点」

ノーベル賞はじめ創造的な場、活発な活動が見られる場には、共通点があるように思います。（最先端技術関連の各種報道より：NHK：「凄ワザ!」など）

①お互いの違いを認める仲間の存在。これは「共生」の考え方。お互いの生きがい、こだわりを大切にしながら調和を目指していこうとする姿勢です。

②意外な組み合わせの発見を追求・発展させる姿勢。事実を前向きにとらえ、新たに価値づける柔軟性・寛容性・発想力が共通です。（例：一見超極小剣山を、全自動スポットでIPS細胞作製用培養シャーレとして使用可能な超極小穴付剣山として開発。ホッチキス・コーラ・付箋などの創造のきっかけは有名です。）

○これからも「自分が勤めたい」「わが子を通わせたい」「地域で誇りたい」学びの場をつくるために尽力します。ご理解・ご協力をお願いいたします。